

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
応用英語 III Applied English III	選択	2年	生産 環境	桑本裕二	2	前期週2時間 (合計30時間)	前期週4時間 (合計60時間)
[教 材] 自製のプリントを配布							
[授業の目標と概要] TOEIC テスト400点取得に必要な英語力を養成する。							
[授業の進め方] TOEICの問題を演習形式で行う。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
TOEIC 問題演習		27	TOEIC テスト 300点台程度の得点者は、基礎的な英語力が備わっていない。この授業では、300点代程度の得点者が400点以上を取得するために、Listening では主に、Part I, Part II の、演習を集中的に行い、当該箇所の聞き取り能力を養成する。Part III, IV は、このレベルの学習者には聞き取り困難であるので、積極的に演習しない。Reading は、Part V のうち、比較的難易度の低いものを集中的に演習することで、初歩的な問題を見つけ出し、それらを完璧に解くことと、きわめて困難な問題をそれと見抜くテクニックを磨く。Part VI もほぼこのやり方にしたがう。Part VII は、図表が含まれる文書が比較的容易なので、そのような初歩的な問題を正確に解答できることをめざす。 全体的には、初歩的な英語力の身につけ方について学ぶ。				
Listening Session Part I 写真描写選択 Part II 応答選択 Part III 会話内容把握 Part IV 説明文内容把握							
Reading Session Part V 空所補充 Part VI 長文空所補充 Part VII 文書読解 1) 1つの文書 2) 2つの文書							
前期試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期試験の解説と解答、および授業アンケート				
[到達目標] TOEIC 400点以上を取ることを。							
[評価方法] 合格点は60点である。学年総合成績は、試験結果100%で評価する。校内実施のTOEIC IPテストおよび公開テストの受験者が定期試験の成績を上回るスコアを獲得した場合はその成績を評価点とする。本授業開講期間中、上記IPテスト、公開テスト、TOEIC形式の定期試験で一度も400点を超えない場合は単位を認めない。							
[認証評価関連科目] 応用英語 I・II, (英語 I・II・III, 英語LL演習, 英語会話, 総合英語 I・II, 上級英語, 工業英語)							
[JABEE関連科目] 応用英語 I・II, (総合英語 I・II, 上級英語, 工業英語)							
[学習上の注意] Listening はいかに聞き取れるかの訓練、Readingは英文を瞬時に読み取り理解する習慣を身につけるものであるから、予習は必要ない。授業中の集中力のみが必要である。							
達成しようとしている基本的な成果	(2)	秋田高専学習・教育目標	D-2	J A B E E 基準	a, f		

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
事業経営論 Theory of Business and Management	選択	2 年	生産 環境	脇野 博 長井栄二	2	前期週 2 時間 (合計 30 時間)	前期週 4 時間 (合計 60 時間)
[教 材] 参考書：「これでわかった バランス・シート」 金児昭 PHP 「MOT (マネジメント・オブ・テクノロジー) 入門」 早稲田大学ビジネススクール著 日本能 率協会マネジメントセンター その他：自製プリントの配布							
[授業の目標と概要] もの作りの生産性・コスト計算の考え方など製品化に不可欠な企業経営の基本知識，さらには技術の社会的・経済的評価を行えるようになるうえで不可欠な技術経営論や知的財産権の知識を修得する。							
[授業の進め方] 講義形式で行う。試験結果が合格点に達しない場合，再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目			時 間	内 容			
授業ガイダンス			1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
1. 株式会社のしくみ			3	株式会社のしくみを理解できる。			
2. 経営組織			4	経営組織の基本を理解できる。			
3. 企業会計			4	企業会計のしくみを理解できる。			
4. 財務諸表			8	財務諸表を理解し，財務分析ができる。			
5. マーケティングと技術開発			4	製品開発の具体的手順を理解でき，シミュレーションできる。			
6. ケーススタディ： ヨーロッパの企業			4	企業の具体例から，その特徴を理解できる。			
前期試験			あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
試験の解説と解答			2	前期試験の解説と解答，本授業のまとめ，および授業アンケート			
[到達目標] 製品化，即ち企業においてもの作りを実現するプロセスを理解することが目標である。							
[評価方法] 合格点は 60 点である。成績は，試験結果 90%，レポート課題を 10% で評価する。							
[認証評価関連科目] (現代社会)，(人類史Ⅰ・Ⅱ)，(科学技術史)，(科学技術社会史)，(技術者倫理)， 社会経済史							
[J A B E E 関連科目] (技術者倫理)，(電気法規)							
[学習上の注意] 復習をしっかり行い，参考文献等にも目を通すこと。企業会計のしくみを深く理解することがポイントである。							
達成しようとしている 基本的な成果	(2)	秋田高専学習 ・教育目標	A-2 C-3	J A B E E 基準	a, b		